

情報開示を徹底し将来見据えた計画に 灰溶融炉廃止と今後の対策、討論

猪名川上流広域ごみ処理施設組合議会

猪名川上流広域ごみ処理施設組合議会が8月8日開かれ、私(黒田)は「灰溶融炉廃止にむけた取り組みの具体について」に絞って討論しました。歴史的経緯を継承し、情報開示と説明責任を果たし、将来を見据えたごみ処理計画になるよう意見を述べました。

この間、お伝えしていますが、施設組合は2021年8月の議員総会で「灰溶融炉廃止」の方向性を示しました。

本施設は、豊能・能勢町のダイオキシン事故を契機に建てられ、広域化と大規模化、設置場所の決定や価格、環境への影響など、計画の決め方や進め方に対して住民の反対運動や裁判が繰り返された歴史があります。

灰溶融炉の設置は、焼却施設から排出されるダイオキシン類の基準※について、国基準を大きく下回る厳しいものとし、循環型社会構築のために啓発施設を含め210億円余で建設、現在に至ります。

こうした経過を踏まえ、施設の要である灰溶融炉の廃止は、周辺住民や1市3町の住民に對して情報開示・提供、説明責任を果たすべきと考えています。

継続的に情報提供を

① 住民合意はできたのか?

2月時点で「合意できていない方がある」との答弁でしたが、その後、理解・納得されているとのことでした。周辺地域への説明会を開き、全戸配布で知らせたとのことです。今後も求められれば丁寧に説明、対応することでした。

1市3町住民に対しては、「灰溶融炉廃止だけの説明ではなく、とになります。排ガス・大気、水質などへの環境影響評価の回数を

含め、環境保全委員会の専門的見地から調査内容や情報開示・報告のあり方について協力・指示を仰ぐこと、住民への説明責任を徹底させることを求めていました。これについては、協議していくことでした。

徹底した情報開示と説明責任を果たすことが、住民の信頼・信用につながります。

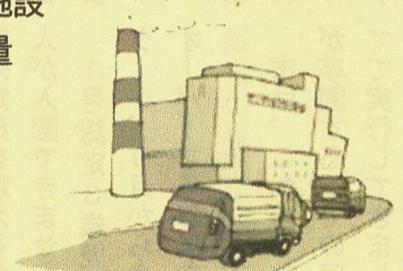
この施設建設の歴史を知る住民、職員や議員が減っていく中で、同じ経緯を大切にし、過程を含め継続的に情報を伝えていくことが住民の理解・納得につながると求めました。

「全体の情報開示のあり方を検討する」という答弁でしたので注視していきたいと思います。

灰溶融炉補助金は? コストアップ、コストを含め計画の前倒しなど変更はないか?

2021年時点の方針に変更点はない」ということでした。各自治体の人口減や予算規模、負担金のあり方やごみ量が減つても、ごみ1t当たり処理費が毎年上がっていることなどを加味して総合的に判断していくべきと求めました。

SDGs達成の取り組みにしていくことが大切です



※ 猪名川上流広域ごみ処理施設

ダイオキシン類総排出量

* $2\mu\text{g-TEQ/t}$ 以下

(マイクログラムパートン)

(国基準 $5\mu\text{g-TEQ/t}$ 以下)

また、「黒川里山センター」の建設事業について、資材高騰等で現在入札のやり直しが行われており、この建設事業者についても8月25日に決定し、来年7月オープンをめざすとしています。



「黒川小(現公民館)南校舎存続の請願」

採択の立場で討論するも継続審査に

市は「提案あれば解体」の方針

市は、旧黒川小学校の南北の校舎と周辺に新設する「黒川里山センター」を一体的に管理・運営する指定管理者を募集中で、年内にも決定し来年4月から委託する計画です。

旧黒川小学校の建物は、北校舎(1904・明治37年築、兵庫県景観形成重要建築物指定)と南校舎(1946・昭和21年築)の2棟が現存しています。

市は、事業者の提案があれば、南校舎の解体を認めるという方針です。

歴史映す貴重な校舎

これに対して市民から北棟、南棟の両棟を今後も川西市の重要な施設として維持管理してくださいという内容の「黒川小学校南校舎保存に関する請願書」が提出されました。

請願者から、木造の小学校校舎は全国でも貴重であることや川西の教育・文化の歴史を築いてきたこと。「日本一の里山」と言われる黒川の豊かな自然とともに維持管理してほしい旨が総務生活常任委員会(磯部委員長)で趣旨説明されました。

議会の意思表示することが重要委員会では、吉富委員と私(黒田)が賛成の立場で意見を述べ、他の

市は、旧黒川小学校の南北の校舎と周辺に新設する「黒川里山センター」を一体的に管理・運営する指定管理者を募集中で、年内にも決定し来年4月から委託する計画です。

旧黒川小学校の建物は、北校舎(1904・明治37年築、兵庫県景観形成重要建築物指定)と南校舎(1946・昭和21年築)の2棟が現存しています。

市は、事業者の提案があれば、南校舎の解体を認めるという方針です。

歴史映す貴重な校舎

これに対して市民から北棟、南棟の両棟を今後も川西市の重要な施設として維持管理してくださいという内容の「黒川小学校南校舎保存に関する請願書」が提出されました。

請願者から、木造の小学校校舎は全国でも貴重であることや川西の教育・文化の歴史を築いてきたこと。「日本一の里山」と言われる黒川の豊かな自然とともに維持管理してほしい旨が総務生活常任委員会(磯部委員長)で趣旨説明されました。

議会の意思表示することが重要委員会では、吉富委員と私(黒田)が賛成の立場で意見を述べ、他の